

流行の移り変わりが激しい振袖の需要に対応したい！ 質の向上とコスト削減を目指し、独自の機械を導入



株式会社はぶき

📍 新潟県十日町市四日町1735-1

☎ 025-752-2736

🌐 <http://kimono-habuki.jp/>

■ 繊維工業



会社WEBサイト

私たちについて

着物の染色やメンテナンス、 レンタルまで幅広く事業を展開

1971年に着物メンテナンスを主事業として有限会社はぶきを設立。以来、染色加工など他の生産工程にも力を入れ、1987年には本格的に染色加工の一貫生産を開始。現在は、染色の製造加工や新規商品を開発する「染色製造部」、着物のアフターケアを行う「メンテナンス部」、レンタル用の着物を卸す「きものケア部」の3事業を行っている。はぶきが本社を構える十日町市は京都市と二分する振袖の一大産地。京都市は分業で製造しているが、十日町市は社内で一貫生産できることが特徴だ。そのため、お客様の声を反映させた着物など柔軟な対応が可能となる。



きっかけ

流行の移り変わりが激しい 振袖需要に対応したい

振袖の流行は移り変わりが激しい。近年はファッション嗜好が高まりSNS等では有名人が振袖を着ると、同じ振袖を着たいと注文が殺到する。しかし、そのスパンは短く、毎年のように違うデザインの振袖が流行。振袖を製造する立場も市場の早い動きに素早く対応することが求められていた。しかし、はぶきは伝統的な型紙を使った



型染めが基本。時間もコストもかかってしまっていた。そこで、平成30年にインクジェットプリンターを導入。型染めだと2-3ヶ月かかる染色が1ヶ月程度に、コストも1/5ほど抑えることができた。しかし、新しい機械を使った染色では、蒸し工程で問題が発覚。既存の蒸し機では発色が弱く、水滴で色落ちてしまうため、売り物にすらならない状態だった。



取組の内容

インクジェット染色に対応した オリジナル蒸し機械を開発

着物の手染めと、インクジェット染色では色をつける材料そのものが異なる。その

ため、手染め用の蒸し機械では品質が保てなかった。そこで、はぶきはインクジェット染色の蒸し工程を一時的に外注に委託。その間に、自社内で蒸し加工ができるようにするため情報収集や検証を繰り返したことで、課題と対策が浮かび上がり、①蒸気が漏れないように高い密閉度を保つ②温度を100℃以上に一定に保つ③全自動で連続で蒸せるようにするといった仮説が見えた。この理論をもとに機械メーカーと打ち合わせを繰り返し、はぶき独自の連続蒸機を製造した。その結果、発色性と色落ちの課題が改善。さらに納期短縮、コスト削減にも成功し、流行に合わせたスピーディーな納品が可能となった。



その後の展開

振袖の多品種化に 確実に対応していく

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年・2021年は成人式が延期や中止になった市町村がたくさんあった。しかし、「せめて前撮りだけでも」という若者からの注文も多かった。近年は大正レトロ風の着物の流行や、友達と違う振袖が着たいなどといった理由で、振袖の多品種化が進んでいる。メーカーはこうした需要に合った振袖をたくさん発表していくことが予想されるので、はぶきとしては「素早くコストを抑えた納品」を売りにしていきたいと考えている。

近年は、長年の信頼と短納期・低コストのおかげで、上場企業や新興企業など、業界内でもシェアを獲得している企業との取引も増えてきた。顧客の要望に確実に早く応えられるように今後も需要に即した振袖・着物を作り続けていく。



message

冠婚葬祭の冠である成人式は一生に一度しか訪れない大切な記念日。そこで着用する振袖は、とても重要な意味を持てます。お客様のニーズや流行性を見極めながら適正商品の制作をしていきたいと思っています。

常務取締役 富澤 和也氏